

平成17年3月定例市議会一般質問内容（各個質問）

平松謙治

【施政方針について】

施政方針の行財政改革の中で、平成15年度から平成16年度の二年間で約12億円の歳出削減が図れたと述べておられます。金額的な結果は、数値として明らかに示されているわけですが、その実質的な効果、市民の理解、問題点など、市長として行革を行った結果に対しての評価や現状認識をお話頂きたいと思えます。

具体的に何点かありますが、順をおって質問致します。まず「収入役をおかないこと」正式には、4月からの施行になりますが、現在、収入役を無くし、その職務を出納室長が行っていると思えます。出納室長の責任や負担が多くなり問題が発生していないか？現在までの現状認識をお答え下さい。

「職員さんの給与削減」と「数の削減」について

職員さんの給与削減による意識低下など問題が起こっていないのか？職員さんの勤務に過度の負担が起きていないのか？

同じく「外郭団体の人員削減」による職務負担が起こっていないのか？

そして、「ゴミ袋の有料化」に対する市民の皆さんの理解の度合いは、合格点か？今まで行った政策を検証する意味で市長の評価をお話下さい。

次に、今後の行財政改革について、質問いたします。施政方針の中で平成17年度予算をベースにして、新たな中期財政見通しを立て「財政再建プラン」を取りまとめるとおっしゃっていますが、この「財政再建プラン」は、いつを目標にとりまとめを進めておられますでしょうか。また、新たな行政改革大綱についてはいかがでしょうか。お答え下さい。

●答弁（概略）

収入役の職は、8月から出納室長、4月からは助役が。

職員さんの意識低下は、無いという認識。残業時間も減少。職員さんの協力で成果が出ている。

外郭団体は、退職者の不補充、パート化で支障の無い範囲で取り組んでもらっている。

市内71箇所で開催を行い、周知を図っている。

行財政改革全般について・・・市民の負担もお願いしつつ、各事業も順調で、一定の理解を頂いているという認識。

財政再建プランは、5月上旬。行政改革大綱は、策定を終えた。

●追求質問（概要）

行政改革大綱は、完成。これを元に実際の実施計画が作られると思うが何時できるのか。

●答弁（概要）

その実施計画が「財政再建プラン」になる。大綱では、改革を行う項目を考えられるものを表現している。財政再建プランでは、中期財政見通しを勘案しながら議員の言うような実施計画のようなものを立て、対応する。

●追求質問（概要）

それでは、大綱の基本方針の中に「数値目標の設定等による事業評価の手法を

検討する」とあるが、この実施計画の中に数値目標が示されるのか。

●答弁（概要）

財政再建プランの中で行財政改革の項目を上げ、年次的にどの様な効果を生むか、赤字がどの程度になるか、その上で削減額を目標定めて行うということ。

●追求質問（概略）

前回の実施計画には、数値目標として示しにくいものもありますが、職員さんの意識など評価基準をお考えですか。

●答弁（概略）

その様な項目は、どのような取り組みをするのか、そういったものを詳細に計画していくことです。

●要望（概略）

熊本市の行政評価システムとして「PDCA サイクル」（プラン・・・計画を立て、ドゥー・・・行動し、チェック・・・目標と結果を比較評価し、アクション・・・対処する一連の流れ）があるが、本市では、PD までで C が不十分と言う認識をもっている。平成17年度外部監査制度が導入されるが、C で終わることなく、A そして PD へつながる様にして頂きたい。

#### 【市民参画について】

施政方針の中でもお話になっているよう「協働のまちづくり推進懇談会」や公聴事業の実施し、市長の目標としている「協働のまちづくり」が一步一步着実に進んでいるように感じています。そして17年度に新設を計画している「(仮称)まちづくり市民委員会」や「(仮称)市民活動センター」などの組織や施設として「かたち」になって現れてきていることを喜ばしく感じています。

さて、前回の12月議会でも「市民参画のまちづくり」について質問させていただきましたが、市民参画の形として行政が主体となっていくことは「委託」。市民主体は「補助」。対等は「共催」というお話を頂きました。

この「市民委員会」や「市民活動センター」は、行政との関係を、どの様な位置づけと考えればよろしいでしょうか。市長のお考えをお聞かせ下さい。

●答弁（概略）

市民委員会や市民活動センターは、市民参加のシステムづくりを進めるための環境整備、基本的施策。

●追求質問（概略）

市民活動センター（市民会館の旧レストランの場所）の整備予算99万4千円の内容を説明下さい。

●回答（概略）

厨房の撤去、内装、若干の備品。

●追求質問（概略）

このセンターの計画段階で市民の意見が活かされていますか。

●回答（概要）

市民活動団体の会合や行財政改革推進委員会で活用方法の提言があり、それらも参考にしていく考え。

●追求質問・要望（概要）

市民活動センターを市民主体的な場としたいということであれば、整備計画・予算の前に市民の意見をもっと聞いてセンターの運営のあり方、役割など市民と一緒に進めて頂きたかった。せっかく出来るセンターなので市民団体の主体性や自主性を発揮出来るよう形で進めて頂きたい。

平成15年度に設立された行政改革推進委員会で市民の声を反映させるため「勧告」といった権限が委員会にないのか、この委員会の位置づけ役割をお聞かせ下さい。

●回答（概要）

各分野の委員会で、その分野の行政の仕事を理解してもらうこと、それから色々な事業を企画立案して頂き、主体的に関わって頂く。そして最終的には、事業評価というところまでなれば理想。

●要望（概要）

市民活動センターや市民委員会も基本的に関わっている市民の参画意識、そしてそこから波及する市民全体への参画意識の広がりがある事業である。PDCA サイクル（上段「市政方針について」参照）などの評価システムは、市民の意識高揚を図れる考え方なのでご検討頂きたい。

【平成17年度予算編成過程について】

市のホームページに平成17年度予算編成の状況が公表されています。

その中で既存の制度としてある「緑と文化のまちづくり助成事業」と新設の「市民活動促進支援事業」が当初別々の事業として予算計上されていましたが、これを市長査定において一本化されております。その理由をお聞かせ下さい。

同じく、中浜港整備事業については、国・県事業との関連から「平成18年度にスライド」と表現されています。平成17年度においては、市長査定でゼロ査定になっています。このゼロ査定は、平成18年度に実施されるからゼロであって、事業自体を行わない意味ではないと思いますが、財政課長・総務部長調整後の金額の欄が「保留」でなくゼロとなっているので市長の考えを確認する意味で質問させていただきます。

平成17年度当初予算時点では、平成18年度に事業を実施する考えであると認識してよろしいでしょうか。ご回答願います。

この他に予算編成過程での金額について確認したいことがあります。予算委員会で質問させていただきます。

●答弁（概要）

「市民活動促進支援事業」は、「緑と文化のまちづくり助成事業」を包括しているため一本化した。

中浜港整備事業は、現時点で18年度着手の考え。

●追及質問（概要）

市民活動促進支援事業予算210万円で内、緑文化の助成金は、いくらを想定しているのか。緑と文化の基金から150万円の繰り入れとなっているが、その内訳によっては、基金制度と市民活動促進支援事業の財源の整合性に問題は無いのか。

●回答（概要）

緑と文化の基金の目的自体がこれを継続しているので、この基金を充当しているということ。

#### 【9月市議会での要望について】

次に9月市議会での要望させて頂いたことに関して質問させていただきます。

9月議会において税徴収の取り組みについて質問させて頂きましたが、その回答として県や西部の市町村と広域での税徴収について現在検討しているとのことでした。その後の進展について現状をお聞かせ下さい。

同じく9月議会でも外江町高潮対策についての質問をさせて頂きました。その中で地域の皆さんに行政の対応を知って頂き、少しでも安心して頂くために、高潮対策マニュアルを地域の皆さんにご説明頂きたいという要望を述べさせて頂きました。

平成17年度には、外江町西岸壁にも高潮対策のカマバを設置する計画があると思います。市民の皆さんに行政の活動を知って頂くことが市民と行政の信頼関係において重要であると思います。今までにこの高潮対策について住民説明を行ったのか、今後行うのかご回答下さい。

#### ●答弁（概要）

広域での税徴収は、平成12年に県主催の研修会で取り上げられ、「西部地区市町村税務事務広域化研究会」が発足したが、震災や市町村合併問題などにより中断。引き続き研究したい。

外江高潮問題は、北海岸沿いの方々には、対応方法を説明。西海岸にもカマ場の設置を予定しており、地区自治会に対応方針などを説明する。

#### ●追求質問（概要）

高潮問題について県への恒久的な対策要望についてどの様になっているか

#### ●回答（概要）

境港管理組合に伝え、調査を実施したいという回答。予算の関係もあり、実施時期などの回答は、なし。

#### ●要望（概要）

引き続き、働きかけをお願いします。

#### 【各個質問を終えて・そして今後】

行政の事業の多くが、「やりっぱなし」の印象をもって、今回は「PDCAサイクル」と言う考え方を行政のシステム、そこまで行かなくても執行部の方々の意識の中にもっと持って頂きたいというポイントで質問戦をしました。

このことは、私たち議員自身も言えることなので「言いっぱなし」にならない様、日々努力して行きます。